

# 事後評価報告書

総合理工学研究機構運営委員会

平成27年7月24日（金）

研究課題	アニオン交換型燃料電池用電解質膜の研究開発	
研究期間	平成25年度～26年度	
	評価項目	平均点
	1 研究課題選定の妥当性	4.0
	2 目標の達成度	2.8
	3 研究成果の活用及び実用化の可能性	2.4
	4 今後の発展性	3.0
	5 総合評点	3.1
<p>本研究は、より安価な燃料電池の作製に向け、アルカリ環境下で安定なアニオン交換膜の開発を目指したもので、燃料電池の発展の為、意義は高いものと判断する。アルカリ環境中での安定性の高いアニオン交換膜はほとんど存在しないため、低い含水率でより高いイオン伝導度を示す電解質膜を(QPP)合成し、アルカリ環境中の安定性試験で1000hを達成、安定性が大きく向上したことは評価できる。しかし、実用化に向けて膜の長期安定性（耐久性）のさらなる改善が必要である。実用化に向けてコスト面を十分に考慮して、共同研究先と連携して開発を進めてほしい。また、今回開発した電解質膜の燃料電池以外の利用法として、水電解・金属回収などの用途への応用も検討も進めてほしい。本研究は、長期的視野に立った研究の継続が必要であるが、燃料電池関連技術を普及を目指す上では、山梨大学との研究連携という点を考慮すると、燃料電池のもう少し周辺で展開することが必要と思われる。</p>		